

6 地域で取り組む環境改善 =住んで楽しいふるさとづくりを=

(1) あせらず、ゆっくり、取り組もう

私たちは新しいものに取り組む場合、なかなか過去を振り返る事をしません。世の中の目まぐるしく変わる現象について行くのが精一杯と言う気持ちでそうさせているのかもしれない。

最近、あちらこちらで聞く言葉があります。

「あそこのスモモの木を切らなければ良かった」

とか

「屋敷周りの木を切らなければ良かった」

等々です。



一度変わった生活スタイルや、居住環境、そして農村景観を過去のように取り戻すには大変な時間と労力が必要になります。

そこで、その地域に永く暮らしてきた人達の意見を聞きながら、子供、孫の代までの長期的な考えがこれからの地域づくりには必要です。

特に子供たちには、歴史的な建物や祭りなどについて、どんな意味があるのかを、地域のことに詳しい人に語り継いでもらう機会を作っ
てはいかがでしょう。



(2) 地域のみんなで共通認識を持つ

私たちの周りには農事組合、協議会、振興会、町内会、子供会など様々な組織があり活動をしています。地域づくりには、このような組織の横のつながりや連携が重要な役割を果たします。例えば、お祭り、共同施設の清掃や草刈りなどは一人ではなかなかできません。地域づくりの活動では組織や団体のリーダーを中心にした盛り上げが重要になります。

また、アンケートなどを利用して地域の人々の意向調査を行い、結果を参考にして取り組む内容を考える事も大切です。

本州からお嫁さんに来た人のアンケート結果には「ゴミ、ラップフィルム類の処理をどうしたらよいか分からない」と言う声があります。例えば、このような問題も地域が中心となって行政機関や農協、廃棄物処理業者との話し合い、交渉の窓口になってもらうことも一つの方法です。

ある地域では振興会が中心になり「地域の幹線道路沿いに桜並木を作ろう」と取り組んでいます。

また、ドイツでは集落ごとに環境や景観づくりに取り組み、住宅の色や屋根の形について話し合い、申し合わせ事項をつくり、美しい街並みづくりを行っています。



(3) 個人の改善事項を地域の取り組みに発展（地域で取り組む環境改善のためのフローチャート）

